

社会技術研究開発 平成24年度募集説明会 「問題解決型サービス科学研究開発プログラム」

Service Science, Solutions and Foundation Integrated Research (S3FIRE) Program 提案書作成の留意点



平成24年4月27日

澤谷 由里子, RISTEX Fellow
Japan Science and Technology Agency

全体的な留意事項



- 以下をよく読んでから記入をお願いします
 - 募集・選考にあたってのプログラム総括の考え方 (P5～6)
 - プログラムの目的及び研究アプローチ (P7～14)
 - 選考要件 (P20)
 - 提案書様式とそのポイント (P47～63)

【注意】研究アプローチによって選考要件の重点が異なります
- “指定されている枚数以内”で記載してください
各様式の左上部に目安枚数が記載されています
- 評価者が理解しやすいように “わかりやすく” 記載してください

H24年度募集のポイント (P5~6)



1. ポートフォリオの拡充(サービスに関する重要な問題)

- ビジネス、人、情報、技術等の多様な知見を融合し、サービス価値評価等 **サービスに関する重要な問題の解決を目指す提案**
- 人・地域活動・規制を含んだ社会システムのデザイン及びマネジメント等の公共サービス

2. 学問融合と現場との共創による知の創出と社会的貢献

- **サービス科学の研究基盤構築や問題解決を通じた社会的貢献**
【注意】システム開発が主目的であると判断される提案は、本プログラムの対象とはならない。
- プロジェクトの研究開発体制: **文理融合(A, B1)、地域やコミュニティの多様な関与者の参画**

3. 多様性の強化

- **研究内容・手法・規模(期間、金額)の多様性の強化**
- 地域、若手、女性や大学以外の機関からの提案の歓迎

3

プログラムの目的(P7~8)



1. 社会における様々なサービスを対象に、その質・効率の向上と新しい価値の創出・拡大のために、問題解決に有効な技術・方法論等を開発する。抽出した知見を積み上げていくことで、**「サービス科学」の概念・理論・技術・方法論を創出**して、将来的に様々な分野のサービスで応用可能な研究基盤を構築する

- **新しい技術・方法論等の研究成果を様々なサービスに活用し、個々の問題を解決**することで、社会に貢献する
- 「サービス科学」の横断的要素(本プログラムでは、「研究エレメント」と呼ぶ)を科学的に検証し、一般化・体系化することで、**「サービス科学」の研究基盤を構築**する

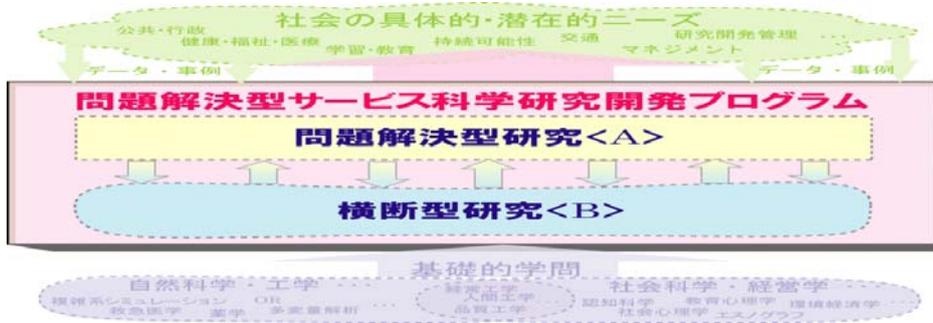
2. 「サービス科学」の研究者・実践者の連携・協働を促し、コミュニティ形成に貢献する

4

2つの研究アプローチ (P8~14)



	A. 問題解決型研究	B. 横断型研究
概要	1. 具体的なサービスを対象に、サービスに係る問題解決のための技術・方法論等を開発し、問題を解決する 2. 得られた技術・方法論が「サービス科学」の研究基盤の構築に貢献することを目的とする研究 文理融合型研究アプローチ	1. 研究エレメントに焦点を当て、新たな知見を創出し積み上げることで体系化し、「サービス科学」の基盤を構築 2. 知見が将来的に現場の様々な問題解決に応用され、サービスの質・効率を高め、新しい価値の創出に貢献することを目的とする研究 B1タイプ(文理融合型) B2タイプ(人文・社会科学型)



研究アプローチと選考要件 (P20)



詳しくは提案書様式とそのポイント(P47~63)参照

	A. 問題解決型研究	B. 横断型研究
背景	a-1. 研究で対象とするサービスが特定され、そのサービスに係わる、解決すべき問題が設定されている問題は十分に絞り込まれ、具体的である (特にA. 問題解決型研究で重視) a-2. 対象とする「サービス科学」の研究エレメントが設定されている (特にB. 横断型研究で重視) d-1. 本プログラムの目的に合致している d-2. 当該制度において実施すべき緊急性、必然性及び公的資金を用いて実施すべき妥当性を有する	
研究開発プロジェクトの構想・実施計画	b-1. 期待される成果(価値創造)は何で、誰のためのものが明確である。それが「サービス科学」の基盤構築に資すると考えられ、新規性及び有用性がある b-2. 誰がサービス提供者や被提供者か、誰がどのような価値を得るのが明確である (特にA. 問題解決型研究で重視) b-3. 構築しようとする「サービス科学」の研究基盤が、サービスに係る問題解決に貢献すると考えられる(特にB. 横断型研究で重視) c-1. 分野融合型のアプローチが採用されている。さらに、「A.問題解決型研究」および「B1.横断型研究 文理融合型」は文理融合型の研究アプローチを推奨。一方、「B2.横断型研究 人文・社会科学型」では、文理融合の有無にかかわらず、主として人文・社会科学系のアプローチであることを推奨 c-2. 多様なステークホルダーとの協働が可能である(特に、サービスの現場と研究者) c-3. 信頼性のある実データの抽出・利用(又は事例の利用)が可能である c-4. サービスの提供者と被提供者の間で情報が循環し、研究開発の中でそれが有機的に統合・融合される仕組みが構想されている c-5. プロジェクトの実施にかかる期間、エフォート、予算が適切である	



1. 概要 (募集要項P48～49)

- ・ 様式1 A4用紙2枚

2枚以内にアピールポイントを言い切る！

- ・ 研究代表者の基本情報(氏名、連絡先等)、研究開発プロジェクトの要旨
- ・ A研究、B1、B2研究のいずれかを選択

【ポイント】

概要(様式1)はA4用紙2枚でプロジェクト要旨が把握できるように記述

- ・ 提案のアピールポイントを明確に
- ・ 様式2以降は、様式1の補足説明資料

7



2. 背景 (募集要項P50)

- ・ 様式2 A4用紙2枚以内

【ポイント】

1. 「サービス科学」の研究基盤構築への貢献に対する考え

2. プロジェクトの問題設定とプロジェクト実施の妥当性

- ① 対象サービス・問題、研究成果の価値 (What, Why)
- ② 問題は、3年間で解決しなければならないものに限らない
- ③ このプログラムでのプロジェクト実施の必然性・妥当性

8

3. 研究開発プロジェクトの構想-1



(募集要項P51～53)

・様式3 A4用紙6枚以内

簡潔に！ なるほどそれならば解けそうだ！

【ポイント】

(1) 概要：プロジェクトの全体像の可視化—**図示**

(2) 研究手法：図示した内容(方法・手段)の具体的説明

- ① 分野融合型(特にA, B1は文理融合型)アプローチ、研究手法の説
- ② 研究に必要なデータの取得の可能性
- ③ 研究の協業の仕組み

9

3. 研究開発プロジェクトの構想-2



(募集要項P51～53)

提案の **新規性・有用性** を明確に記述

【ポイント】(続き)

(3) 成果：研究の新規性、有用性及び想定するプロジェクトの成果

【注意】 A・Bの選考要件参照

- ① 先行研究、先進事例に対する新規性、有用性
 - 「サービス科学」の研究基盤に関する知見の創出
 - 先進事例に対する価値の創出
- ② 想定するプロジェクトの成果
 - 問題解決への貢献、他分野への応用

(4) 「サービス科学」の研究基盤構築への貢献

- ① 3.(3)「成果」との関係
- ② 2.(1)「『サービス科学』に対する考え」との関係

10

3. 研究開発プロジェクトの構想-3

(募集要項P51～53)



【ポイント】(続き)

(5) 倫理的・法的側面の対応策(オプション)

- ① 実データ(特に個人情報)取扱い上の、相手方との同意等
- ② 成果の公表における制約

・提案に関して倫理的・法的側面等での対応を求められる可能性がある場合のみ記入

(6) プロジェクト遂行上の障害となる原因の特定・アクション等

- ① 現実的なプロジェクト計画
- ② 障害を除去するための対策

11

4. 実施計画

(募集要項P54～59)



・ 各様式 A4用紙1枚以内(様式4-4はグループ毎)

マイルストーンの明確な(定量的な)説明

【ポイント】

- (1) プロジェクト全体の計画 P54の表示形式の使用
 - ・ 研究開発項目の達成度の判断基準と時期
- (2) 研究開発実施体制の全体的な見取り図
 - ・ A、B1型は分離融合チーム
- (3) 研究グループ毎の計画
- (4) 資金計画

12



その他 (募集要項P60～63)

- (1) 多制度での助成金の有無
様式5 A4用紙2枚以内
- (2) 特記事項
様式6 A4用紙1枚以内
- (3) 関連する取り組みリスト【参考】
様式7 研究者毎にA4用紙1枚以内
主要な実績や経歴を、参考情報として記述

【ポイント】

様式6. 特記事項では、他の様式では伝えきれない内容を自由に記述

13

募集締め切りは
6月13日(水)正午

応募をお待ちしています



14